

この街に去<sup>さ</sup>ぬる人の住むと云ふ  
声を探しつ 振り向く我に

令和四年四月二十五日

大中臣正比呂



若き日々は転居を繰り返すものだ。彼<sup>か</sup>の人<sup>ひと</sup>が既に住んではいない  
街にも、時は貼り付いているのであろう。新しい街には、また新しい  
出会いがあるものだよ。